

身近な関係から後継者へ

経営継承までのプロセス

2011年

先代経営者の息子が就農し、
後継者として営農開始

2014年

先代経営者の息子の体調不良により、離農を決意

2016年

後継者が櫛(しきみ)の生産を検討し、近隣の先代経営者に相談。種鶏が長く続けられるとアドバイスを受ける

先代経営者が後継者に対して経営移譲の意志を伝達し承諾

2017年

後継者がJAに相談し、就農前に研修農場の紹介を受ける

かくして具体的に
継承の取組みがスタート!

生産技術習得のために研修農場で勉強
家族4人で就農することを家族会議で確認

2019年7月

離農済みのため、先代経営者の農地のみを売買し、継承



先代経営者/
小野 幸徳さん
(81歳)の場合

種鶏・花きを中心に営農。息子に跡を継がすも体調不良により離農を決意。

- 収入金額：※離農済み
- 従業員数：家族専従者1名(妻)
- 事業地：宮崎県延岡市
- 事業概要：農産物の生産(種鶏、花き)
- 規模：種鶏8千羽、鶏舎2棟

知人に継承（第三者継承・個人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 離農済みのため、従来の経営概略を学ぶ。

資産（モノ・カネ）の継承

- 農業用設備について、農地以外はJA名義であったが、遊休資産かつ老朽化が著しいため、無償譲渡
 - 先代経営者から農地のみを売買し、設備を修繕することで、営農開始。
- 【農地価格の算出方法】
- 近隣の売買事例を参考に、お互いが納得する形で売買。
 - 後継者は設計士であったことから、土地売買には精通していた。

知的資産の継承

- 離農済みのため、技術の継承については、研修農場で学ぶ。
- 経営継承後は、JAの指導員や先代経営者より随時指導を受ける。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／那須政道さん（63歳）

継承年月…2019年7月

収入金額…180万円（2020年）

所得金額…50万円

従業員数…家族従事者3名（妻、長男、長女）

事業概要…農産物の生産（種鶏）

規 模…種鶏8千羽、鶏舎2棟

現在、種鶏卵をJA経由にて出荷しているが、初期産の卵と後期産の卵が規格外品とされ、1シーズンあたり約12万個廃棄処分となる見通し。食品ロスの観点からも、液体凍結設備等を導入し、品質が高く鮮度が保てる冷凍卵として食品業界へ販売を行う等、六次産業化を検討中。家族4人で就農していることもあり、十分な労働力を確保することができおり、規模拡大および六次化を行い、農業経営を発展させていく。



次ページにて継承ポイントを詳しく解説